種名	シ　　メ Coccothraustes coccothraustes
分類	スズメ目アトリ科
特徴	太いくちばしで木の実を割る、ずんぐりした体形の茶色い地味な鳥。ユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖し、日本では北海道に夏鳥として渡来後、繁殖し、冬期は本州以南に移動する。大陸、サハリンなどから冬鳥として渡来する個体もある。
生活	繁殖期には、落葉広葉樹の明るい林に棲息する。つがいで生活し、木の枝の上に枯れ草で椀形の巣を作る。産卵期は5～6月、卵数は3～6個、抱卵日数は14～15日。越冬地では、渡来直後や渡去前には 10 数羽の小群を作るが、普通は単独で見られることが多い。しかし、100羽前後の群れが冬をとおして見られ、川原のオオブタクサの群落でその実を食べていたという例もある。一般には、雑木林や公園などの明るい林に棲み、ムクノキ、エノキ、ヤマハゼなどの木の実を好んで食べる。地上に下りて実を拾うこともある。
声	ほとんどさえずらない鳥で、筆者は北海道の浜頓別の林で「チューピッピッピィー、チィッチィッ」という声を1回だけ聞いたことがある。「ピィピィピィー」はイカルに似た音色であった。そのほか「ヒーホイホイ」と鳴いたという記録がある。地鳴きは「チチッ」とか「チキン」と聞こえる鋭い声を出す。
見分け方	くちばしが大きく尾が短い体形。白い翼帯があり、飛ぶとよく目立つ。
時期	繁殖地　・　・　・　4　5　6　7　8　9　10　・　・ 越冬地　1　2　3　4　・　・　・　・　・　10　11　12
その他	全長（L）19cm　翼開長（W）31cm　産卵期は5～6月

参考文献：山渓カラー名鑑　日本の野鳥